



三年千日をふり返り 後半の心定め確認を

6月大教会教会長会議
立教187年6月22日
大教会長 片山幹太

本島通信

発行所 〒763-0223
香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R240625-0627-15
奈良県天理市指柳町270-1
本島詰所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)

<https://www.honjima.com>
Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
【6月1日～8月31日】
朝づとめ 午前6時00分
夕づとめ 午後7時00分

教祖140年祭に向かう三年千日の活動も、この6月で前半が終わり、折り返しに当たります。

そこで後半を迎える前に、これまでの歩みを振り返り、私の思うところをお話させて頂き、今後の歩みをご参考にして頂けたらと存じます。

まずこのたびの年祭活動は、ご本部から形の上で大きな目標を与えられての年祭活動ではなく、一人ひとりが自分で考え、それぞれの立場や実状に応じて心定めを行い、実行することに特徴があります。

そこで前半を振り返るに当たって、その心定めを実行して心の成人ができてきているのか、どのように通っているのか、見つめ直してみましよう。

そして心定めの実行について、良ければ後半も続け、直すところや反省するところがあれば、より具体的に変わることが必要だと思います。

次に、「教祖は「存命」であること

です。私たちは教祖が「存命」であることを実感してお道を通っているのでしょうか。

おぢばがえり、教祖にごあいさつさせて頂きたいという気持ちで帰らせて頂いているでしょうか。

本部神殿と教祖殿は移動しやすいように廻廊で結ばれ、歩いて行くことができます。そして教祖殿では教祖が「待っていた、待っていた」と子どもの帰りを喜ぶように私たちが帰るのを待ちわびてくださっています。

次に「困っていることがあったら相談したいと思ってもらえるような人にならせて頂く」ということです。それが教祖の使いやすいよう、ほくではないでしょうか。そのためには、常に心配り、気配り、目配りを心がけましよう。

そして自分(自教会や身内なども含め)に心配なことがあるときこそ、信者さんや他者のことを心配させて頂きましょう。

この場合、心配とは先案じではなく、心を配るということです。

相手のたすかりを毎日教祖にお願いする。その気持ちを相手にも伝える。心を通わせることが大切です。

そして大切なことは、くり返し身

に行い、口に出して伝えることです。意識的にくり返すことが、次第に自然と身について日常になっていくこととしましょう。

「教会長夫妻おたすけ推進のつどい」で聞かせて頂いた先生のお話を思い出して、学ばせて頂きましょう。

さて、中学生や高校生は夏休みを前に、そろそろ進路を考える時期だと思えます。この選択肢の一つに、どうかおぢばの学校で学ぶことを加えて下さるようお願いいたします。

中学生には、天理高等学校一部や二部、高校生には天理教専修科や天理大学、また保育士を育成する白梅寮などがあります。大学生には天理教校本科研究過程や実践課程への進学もあります。

どうか進路を考える引き出しにおぢばの学校を入れて頂けたらと存じます。

最後に、今日は学生層育成者講習会を受講させて頂きました。

若い人に道を伝えることはお道の大切な御用です。親子共々おぢばがえりをして、教祖に心をつなぎましよう。ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

誠の心で 人材の育成につとめよう

本部学生担当委員
飯降好助 先生

本日は良いお日和のもと、6月の

月次祭を勤められまして、誠にめでとございます。私は天理教学生担当委員会の委員を務めております飯降好助と申します。只今より学生層育成者講習会のお話させて頂きま

す。「どこの飯降さんですか」とよく尋ねられますので、まず自己紹介をさ



せて頂きます。

信仰初代の飯降伊蔵には3人の子がいました。上からよしゑ、まさゑ、政甚です。私は次女まさゑにつながる飯降で、昨年4月から大分県別府市にある本部直属の豊路分教会の会長を勤めさせて頂き、一年経ったところであります。

若い人を育てる必要がある

まず、学生層の育成の必要性はどこにあるのか。それは「道は末代」とお教え頂いているからだと思えます。この道は、一代で終わるのではなく、次の代、次の代と末代かけて陽気ぐらしの世が実現するまで生まれ変わり出変わりを繰り返すのだと教えられるからです。

稿本天理教教祖伝逸話篇一一七に

「父母に連れられて」というお話があります。

明治十五、六年頃のこと。梅谷四郎兵衛が、当時五、六才の梅次郎を連れて、お屋敷へ帰らせて頂いたところ、梅次郎は、赤衣を召された教祖にお目にかかって、当時煙草屋の看板に描いていた姫達摩を思い出したものが、「達摩はん、達摩はん。」と言った。

それに恐縮した四郎兵衛は、次にお屋敷へ帰らせて頂く時、梅次郎を同伴しなかつたところ、教祖は、「梅次郎さんは、どうしました。道切れるで。」と、仰せられた。

このお言葉を頂いてから、梅次郎は、毎度、父母に連れられて、心楽しくお屋敷へ帰らせて頂いた、という。

というお話です。「道は末代」ですが、後に道を歩む人が続かなければ、道は切れてしまうとの仰せです。

そして、おさしづに、「もう道というのは、小さい時から心写さにやならん。」(明治33・11・16)とありますように、年の若い時から信仰を写していくことが大切です。

それを、若い者はやっかいたと、

遠ざけると言わないまでも、後回しにしてしまう傾向もなきにしもあらずではないかと、自分自身を振り返って反省しながら学生層の育成に関わらせていただいております。

おさしづに、「若い者寄り来る処厄介、世界から見れば厄介。なれど道から厄介ではない。道から十分大切。」

(明治26・6・19)

とあります。世界から厄介と思われるような若者であっても、道の上では厄介ではなく、「十分大切」と教えていただきます。

そして、おさしづは続いて「十のものを九つ半大切して、半分だけ出けん。十のものの半の理で九つ半まで消す。よう聞き分け。」とあります。

つまり横の布教がいくら活発であつても、縦の伝道をおろそかにするとどうなるか。布教が盛んでお道が隆盛になったといつても、後が続かなければ一代限りで終わりとなることを戒められています。

学生層を若年層と捉えて

今日は「学生層育成者講習会」ということでお話をしていますが、学生

と同じ年代の「若年層」の育成と言葉を替えて聞いて頂きたいと思えます。

つまり学生に限らず「あの人のお孫さん、中学校を卒業したあと、就職すると聞いてたけどどうしているかなあ」とか、「小さいころ、おじいちゃんと一緒に教会に来ていたあの子、働くと言ってたけど、どうしているかなあ」など、若年層と考える身近に思い浮かぶ方が出てくるのではないのでしょうか。

若者の育成に携わる際の心構え

そこで若者の育成に携わる際の心構えについて、大切と思えますことを、学生担当者大会における真柱様のお言葉から、5つ挙げたいと思えます。

まず一つ目に、どういふ人に育てるのか？ということですが、

真柱様は、

「どのような人に育てたいのか、何を伝えたいのか、あやふやなことでは、育てられる側も困惑するのであります」

そして、

「学生会の活動を支援し盛り立てるとともに、学生たちが教祖のよ、うぼくとして立派に成人するよう、

導き育てることを目的に、学生担当委員会が発足したのであります。(中略)皆さん方には、このいきさつを承知の上で、それを念頭に目的から外れることなく、学生担当者としての役目を果たしていただきたい」

とお話し下さいました。

当たり前のことと思われるかもしれませんが、実際、若者と接するときに、「教祖のようぼくとして立派に成人するよう」に導き育てるといふ目的を常に心に置いて若者と接することができているかどうか。まずそのことを、改めて確認させて頂きたいと思えます。

そして二つ目に、若者がよ、うぼくとして成人するための世話取りには大きく二つの面があると話されました。それは、

「一つは、行事を計画し参加を促し、それが盛り上がるように終わるよう心を配る、いわゆる表に見える面の世話取りであり、もう一つは、学生たち一人ひとりの心が成人するように方向を示し、そこに辿り着くことができるよう導く、いわゆる内面の世話取りであります。この内面の世話取りに重点を

置く方が、より望ましいであろうと私は考えているのであります。」

新型コロナウイルスの影響で、それまで当たり前のように行われていた行事が中止となり、何のための行事なのか、行事の目的は何なのか、企画運営する中で忘れてはいけないこと、すべてが、ようぼくを育てるための行事であることを見つめ直すことが行われ、そういった話が多く聞かれるようになりました。

昨年からは新型コロナウイルスの影響も少なくなり、おぢばでも、各直属や教区でも、行事が活発になりつつある嬉しい状況になっておりますが、行事の盛り上がりや、参加の有無に一喜一憂することなく、大切なのは、「一人ひとりの心が成人するように方向を示し、そこに辿り着くことができるよう導く、内面の世話取り」であることを心に置いて、若者の育成に努めさせていただきたいと思えます。

そして、三つ目に、育てる者の成人について、このようにお話し下さっています。

「おさしづに、

『順序一人先に立つて、後々育てるがこの道。』(明治31年9月19日)

とあります。先に道に引き寄せて頂いたお互いが、率先して教祖の思召に添って歩み、自らが成人する姿を通して、自分より経験の浅い者を、少しでも教祖のお目に適うようぼくに育てるのが、道の順序であると教えられるのであります。その際、何よりも問われれますことは、先に立つ者の成人であります。」

更には、

「道に外れたる心で育てようと思つた処が育たん。」(明治33年1月4日)とおさしづを引用されて、

「育てる者が育つことによつて、初めて人を育てられるのであります。道に外れた人間思案で考えても人は育てられないと、仰せ下さっているのであります。」と重ねてお話し下さいました。

そして、四つ目に、「地道な丹精で彼らを導いてもらいたい」と話されています。

「若者が教祖の教えに素直に向き合い、実践していくには、自分はどう手助けすればいいのかと、いろいろ考えを巡らせ、講じ合いながら、地道な丹精で彼らを導いてもらいたい。」

手間のかからない早道や近道ではなく、時間がかかっても、教祖のよ^うほ^くとして立派に成人するよ^う、地道な丹精で導いてもらいたいと求められています。

そして、五つ目は、人が育つのは、それは人間の力ではなく、親神様にお働き頂くことがなくては成しえないと、次のようにお話し下さいました。

「おさしづに、一粒の種を蒔く日から、出来芽が吹くか。あちらへ肥差し、こちらへ肥差し、世話取りせにやららん。世話無くして、肥無くして、修理無くして、実はなるものやない。人間心でどうしようこうしよう成るものか。日々の守護ありやこそ、年限の理。(明治34・11・21)

と私たちの人材育成の心得を懇切丁寧にお教え下さっています。あたかも農作物を修理や肥を施して育てるように、神一条の信念で年限かけて真実を尽くして心を配るところに、御守護を頂いて、人の育つ喜びをお見せ頂ける(中略)人を育てるのは、(中略)自分の力ではなく、親神様にお働き頂くことがなくては、成し得ないと考えな

ければならないのであります。人を育てる上についても、あの人に育ってほしいと思うならば、そのような御守護を頂けるように心を尽くすことが肝心であります。」

(学担発足30年記念大会)

誠の心で人材の育成につとめよう

この五つはまさにに、をいかけ、おたすけそのものです。

では、このことを具体的に進めていくにはどうすればよいかについて、おかきさげに次の一文があります。

「誠一つが天の理。天の理なれば、直ぐと受け取る直ぐと返すが一つの理」

であります。

では、親神様にお受け取りいただける「誠」とは何でしょうか。

「誠」とは「たすけ一条の心」、または「たんのうは真の誠」と言われますが、おかきさげにあるこんな一文について考えてみたいと思います。それは、

「日々という常という、日々常に誠一つという。」

です。「誠」とは、日々、常々が大切ということなのです。

教祖百三十年祭の神殿講話で真柱

様は、

「百三十年祭を勤め終えて、これからの歩み方を思案するとき、何にもまして、道の将来を担う人材を育成する必要性を強く感じるのであります。」

と話されました。そして、同じ年の秋季大祭では、

「八つのほこりは、最も身近な常日ごろの心づかいに関する教えであります。ほこりというたえは、払えば取れるという意味ではありがたいたえでありますが、日々常に払うように心がけなければ、ひとりでに積もり、ついには手に負えなくなるという厄介なものでもあります。

それだけに、口では唱えはしても、家庭や職場といった現実の生活の中では忘れてしまっているようなことでは、なんにもならないと思うのであります。(中略)一日の終わりに、その日の行動を振り返ったり、あるいは一日の始まりや事に臨んで心の準備をする手がかかりにするなど、常々に意識し、心がけていくうちに、自然にできるようになるのではないかと思うのであります。」

とお話し下さいました。

「誠」とは、口で話すこと、心で思うこと、そして行いが揃っている姿です。

本席様の話

「誠」についても一つ思います。ことは、おかきさげに

「誠より堅き長きものは無い」とあります。

私の信仰初代にあたる飯降伊蔵の話になりますが、逸話篇二九に、「三つの宝」というお話があります。

ある時、教祖は粉を三粒持って、飯降伊蔵に向かつて、

「これは朝起き、これは正直、これは働きやで。」

と、仰せられて、一粒ずつ、伊蔵の掌の上にお載せ下されて、「この三つを、しっかり握って、失わんようにせにやいかんで。」と、仰せられた。

伊蔵は、生涯この教えを守って通ったのである。

というお話です。

また教祖伝逸話篇一一「朝、起こされるのと」というお話には、

「朝起き、正直、働き。朝、起こされるのと、人を起こすのとでは、

大きく徳、不徳に分かれるで。蔭
 でよく働き、人を褒めるは正直。
 聞いて行わないのは、その身が嘘
 になるで。もう少し、もう少しと、
 働いた上に働くのは、欲ではなく、
 真実の働きやで。」

と、教祖が伊蔵の長女よし系にお話
 し下さっています。

さらに「働く」ということについて
 は、

「働くというのは、はたはたの者
 を楽にするから、はたらく(註、
 側楽・ハタラク)と言つうのや。」

(稿本天理教祖伝逸話篇一九七「働く手は」)

とも教えてくださっています。

つまり「朝起き、正直、働き」の教
 えは、何か特別な時にだけ行なう教
 えではなく、日々常々の心がけ、行
 いを教えてくださっているのだと思
 います。

ひながたそびにある

只今は、教祖140年祭を成人の節目
 として三年千日を歩んでいる最中で
 あります。

論達第四号に引用されている
 「ひながたの道を通らねばひなが
 た要らん。(略)ひながたの道より
 道が無いで。」(明治22・11・7)

その長文のおさしづの中に、
 「ひながたそびにある」
 という一節があります。

このお言葉の意味するところは、
 「ひながたを素直にたどった本席の
 手本雛形の道がお前たちの身边、そ
 ばにあるではないか」ということで
 あります。

それぞれが具体的な目標を定めて、
 心の成人に努めている中であつて、
 教祖の教えを日々常々、堅く、長く
 実行し続けた伊蔵の通り方が、三年
 千日の通り方の手掛かりにもなるの
 ではないかと思わせて頂きます。

さて、昨年の秋の大祭で真柱様は、
 「まず教祖は、五十年の間、ど
 んなことが起こつても諦めること
 なく、丹精し続けられたというこ
 とを、これもひながたとして忘れ
 てはならないことなのではないか
 と思うのでございます。」

とお話し下さいました。

おさしづに、
 「これまでの処何ば働いたて、暮
 れた教祖の理を思え。存命の間楽
 しみの理も無く、理を見ず暮れた
 教祖の理を見よ。」

つづいて

「働けば働くだけ、めんく心に
 誠さえあれば踏み損いは無い。こ
 れ論じたら分かるやろう。働いた
 ら働いたゞけ、これから見えるの
 や。よう聞いて置かにならん。」

(明治30・12・23夜)

と、私たちは教祖が通つて下さつた
 その上に安心して勤めさせて頂ける
 のであり、「心に誠さえあれば踏み
 損いは無い」「働いたら働いたゞけ、
 これから見えるのや」と、あとは親
 が請け合うと後押しして下さい
 るのであります。

このことは、論達でお示しいただ
 くところの、「ぢばを慕い親神様の
 思召に添いきる中に、必ず成程とい
 う日をお見せ頂ける。」と重なると思
 います。

学生のために使う時間を増やそう

学生担当委員会の今年の活動方針
 の実践項目に、「学生のために使う
 時間を増やそう」があります。

その内容は、「学生の話聴く、
 食事をする、共に教えを学ぶ、ひの
 きしんに汗を流す、会えない学生に
 手紙を書くなど、学生のために時間
 を使い、手間暇をかけて真心を尽く
 す。」と記載しています。

日々、自らも心の成人に努めなが
 ら、教祖のようばくに育つていただ
 くという目的を常に頭に置いて、親
 神様のお働きを頂いて人が育つ喜び
 をお見せ頂けるよう、地道な丹精を
 続けさせていただきたいと思ひます。

「日々」ということについて、明治
 22年のこんなおさしづがあります。

「皆成程の理が分かれども、日々
 の理が分からねば、どうもならん
 くく。をやの話、をやさんの
 話やと楽しめました。成程の理が分
 かりても、日どの理が分からにや、
 何時に何程の井手が崩れるやら、
 潰れるやらこれ知れん。」

(明治22・4・17)

「井出」とは、「田んぼの用水のた
 めに、川などの流れをせき止めてあ
 るところ」のことです。「成程の理が
 分かつて、日どの理が分からなけ
 れば、いつ何時に、どれほどの井手
 が崩れてしまうか、潰れてしまうか
 知れないよ」ということでもあります。

教祖が現身を隠された翌年の明治
 21年11月29日(陰暦10月26日)に、教
 会本部設立の宿願がかなつて開筵式
 が勤められました。それまで警察の
 弾圧を受けていたのが、教会本部設
 立の開筵式当日は、それまでの熾烈

な弾圧ぶりとは打って変わって、たくさん巡査が派遣されて参拝者の整理に当たったといいます。その翌年の22年になると各地の講社が親神様に願い出て、続々と教会が設置されていきます。このおさしづは、そのころのお言葉です。

「成程の理」とは、艱難苦勞の末に見せていただけた道の結構な姿に対する人々の「納得」を表しているものと思われまふ。しかし親神様は、それほど結構になつても、「日々の理」、すなわち御教えを日々素直に実行していくことの大切さが分からなければ、結構な姿も長くは続かないと戒められています。

冒頭に上げました、おさしづ、「十のもので九つ半大切に、半分だけ出けん。十のものの半の理で九つ半まで消す。よう聞き分け。」とも重なるのではないでしょう。十ある中で「九つ半」という横の布教がいくら活発であっても、残りの「半の理」である縦の伝道をおろそかにすると、今日までせっかく通つた九分九厘までの道を消してしまふ。布教が盛んでお道が隆盛になつたといつても、後が続かなければ一代限りで終わりとなくなることであり

ます。

少年会では、今年の活動方針に、「教祖のひながたを目標に教えを實踐し、子供に信仰のありがたさを伝えよう」

を掲げております。まずは育成する者が教えに沿つた日々を通り、子供に信仰を伝えるということであるうかと思ひます。お道の人材育成は、同じことであろうと思ひます。

現在、教祖140年祭に向かう三年千日の中にあつて、「ひながたそばにある」と教えられるように、伊蔵のように、教祖を慕い、日々常々、堅く長く教えを守つて通る中に、若者と共々に成人させていただける道、先を楽しみに、歩ませていただきたいと思ひます。

最後に、重ね重ねになりますが、ある年の学生担当者大会における真柱様の勇気を頂けるお言葉を紹介して終えさせていただきます。

「それぞれの道すがらの中には、おそらく良いことばかりでなく、努力を重ねても目に見えて実らず、心勇めない日々もあつたらうと思つのであります。しかし、道は末代、また、続いてあつてこそ道ともお聞かせいただいでいま

す。このお言葉の中に、信仰する楽しみがあることを、神様はお教えくださつておられると思つのであります。(中略)たとえ、その代その代における境遇はどうであつても、神一条の心遣いで通ることを心に定め伏せ込むは、必ず次の代へ受け継がれるのであります。それを楽しみに、私たちは陽気ぐらしに向かつて、末代かけて道を繋ぐのであつて、私たち一人ひとりがいわばその繋ぎ役であります。教祖からお教えいただいた道を、更に先へと、親神様のお望みに適う世が實現するまで繋いでいくのであります」

(立教177年学生担当者大会における真柱様お言葉)

終わりに、7月から開催されます「こどもおちばがえり」、8月におちばで開催します学修高校の部、また本島大教会では鼓笛隊の合宿を開催されると聞いております。

将来のようばくを育てる行事へのお声掛けをお願いします。話を終えさせていただきます。最後までご清聴いただき、誠にありがとうございます。

(文責・本島通信編集室)

計報

本桶川分教会長 田中佑三氏

田中佑三氏(本桶川分教会4代会長)



は去る6月2日午後8時30分お出直しになりました。享年89歳。

葬儀はみたまうつしを6月6日午後6時より、告別式を翌7日午前11時より、本桶川分教会(埼玉県桶川市)にて、永島宗行・渋谷分教会会長斎主のもと執り行われました。みたまうつしに大教会長が参列しました。

田中佑三氏略歴 昭和9年7月15日生まれ。昭和40年11月27日、おさづけの理拜戴。昭和62年6月27日、修養科第52期修了。同年9月19日、教会長資格検定合格。同年10月13日、教人登録。同年11月22日、大教会神殿奉仕人。昭和63年5月26日、本桶川分教会4代会長拜命。立教154年7月より9月まで修養科第60期教養掛。立教164年10月から12月まで修養科第72期教養掛。立教168年4月24日、本桶川分教会神殿建築落成鎮座奉告祭。教会長在職期間36年間。

六月月次祭 祭典役割

献饗長 岩橋竜造
伝供 岡崎八十則・向所隆文・永島宗行・原口実・後藤正治・奥村龍夫・伊東康成・高垣光治・横山正次・高島栄造・長尾海和・岩橋秀一・窪田卓夫・白垣初生・香川勝己・鎌田典夫・滑川善久・宮路和徳・橋口徹・村田輝夫・古井信・大西剛・上山康雄・川村吉夫・溝口晋太郎・江草克二
雅楽奉仕者 文岡育則・横関茂治・池田恒治・片山秀明・香川高範・上山薫・伊東賢太郎・内橋和博・鎌田康典・香川靖幸・白垣俊生(順不同)

祭主 指図方	大教会長	座りづとめ	片山 勲	平井真治郎	賛者	大上道徳 茶屋原良昭
	西山道教					
地 方	牧野道昭	高垣光治	高垣正次	高島栄造	山下英久	長尾海和 宮路和徳
	井上 哲 岩橋竜造					
てをどり	大教会長	永島宗行	後藤正治	伊東康成	窪田卓夫	橋口 徹
	片山 勲 寺本教生 會長夫人 長尾澄子 池田さわみ					
ち ゃ ん ぼ ん 拍 子 木	平井真治郎	奥村龍夫	篠原丕王	吉田晴雄	田中丸勝也	長濱充憲
	老木邦光 岩橋慶三 岡崎八十則 窪田靖明 向所隆文 片山やすゑ 片山孝代 片山 榮					
す り が ね 鼓	向所隆文	永山晴明	原口 実	井上みつの	菅岡和美	岡崎むつゑ
太 鼓	永山晴明					
三 味 線	片山 榮	佐藤道子	長尾善絵	伊東晴美	江草克二	鎌田典夫
胡 弓	片山 榮					
神 殿 講 話	飯降好助先生(学生層育成者講習会)					

六月月次祭祭文

立教百八十七年六月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます
 親神様には世界一れつの子供をたすけ上げたたいとの親心から旬刻限の到来と共に教祖を月日のやしろにこの世の表に現れになりたすけ一条の道をお啓き下されて陽気ぐらしへとお連れ通り下さいます御慈愛の程は、誠に有難く勿体ない極みでございます

御前には今日を樂しみに帰り集いました教え子達が日頃の御厚恩にお礼申し上げ一層の御守護にお継りする真実の状をもご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
 尚本日はおちばより学生担当委員会委員の飯降好助先生のご出向を賜り「学生層育成者講習会」を祭典に続いて開催させて頂きます

この上からも道の将来を担う学生層への丹精についてしっかりとおちばの思いを学ばせて頂きたいと存じます
 またこの月二十四日御本部において三代真柱様の十年祭が執り行われるに当り長きに亘って全教の先頭にお立ち下され教

を碎き道の後継者育成に意を尽くされた厚い親心にお応えさせて頂けるよう心新たに努め励ませて頂く所存でございます
 何卒親神様にはこの真実をお受け取り下さいます年祭活動の一層の充実と共に世界たすけの進展をお見せ頂きますようお願い通りの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます
 (原文のまま)

入社祭

(立教187年6月22日)

▼本中国△篠原慶士

【計1名】

6月22日(土)

【香川県丸亀市】

天候 曇時々晴後雨
 最低気温 20.6℃
 最高気温 25.6℃
 平均気圧 1004.8 hPa
 平均湿度 93%
 平均風速 1.6 m/s
 日照時間 3.8 時間
 降水量 29.5 mm
 ※ 降水量は一日の総雨量

大松峰分教会3代会長就任奉告祭



大松峰分教会(松下尚一
会長・大分市)では、松下一
司前会長のお出直しにともな
い、本年5月26日のお運びで
松下尚一氏の教会長任命の理
のお許しを戴いておりまし
が、去る6月9日午前10時よ
り大教会長夫妻(随伴・向所
隆文准役員)を迎え3代会長
就任奉告祭を執り行いました。
当日は梅雨入りを告げる大



雨の中、各地より参拝者70余
名が集いました。

挨拶に立った大教会長は、「4年前に現在地へ移転建築した理由の一つに、豪雨による浸水災害から教会を守るためというのがありました。今日の大雨は亡き前会長の御霊様が、『大雨でもだいじょうぶですよ』と笑っていらっしやるような気がします」と述べられ、続いて「論議に『教祖はひながたの道を(中略)心明るくお通り下された。』とあります。『月日』が『明』という字になるように、明るい教会に人は集まり、月日親神様のご守護も頂けると思います」と述べ、さらに三代真柱様がお教え下さされた教会の使命「①教祖の教を一人でも多くの人に伝え、人を救ける。②おつとめを教えられた通り勤め、世の中の治まりを願う。③陽気ぐらしの根本となる」ことを示し、「陽気ぐらし建設は神と人間の共同作業です。

神峰分教会遷座祭

神峰分教会(橋口徹会長、鹿児島市)では、去る5月26日のお運びで神殿建築の理のお許しを戴きましたが、ふしんは現在地の建物を取り壊し、

私たちはたすけ一条の教祖のお心に近づかせて頂けるよう努めさせて頂きましよう」と締めくくられました。

大松峰分教会は4年前の6月10日に神殿移転建築落成奉告祭が執り行われましたが、コロナ禍の最中にあり、大分県内の限られたようばくだけで勤められた経緯がありました。このたびの就任奉告祭には、新神殿に初めて参拝したという県外からの帰参者も多く、新しい神殿で教祖にお教え頂いた通りのおつとめを、陽気に勇んで勤められました。尚、松下尚一新会長は昭和61年生まれの38歳で、現在の本島部内教会長の中で最年少教会長となります。



同じ場所に木造2階建の神殿教職舎を建築するため、親神様お目標標ならびに教祖お目標標と祖霊様を、教会から徒歩7分ほどの所にあるようばく宅に仮神殿を設け、お遷しすることの理のお許しも併せて戴きました。

そこでお許し頂いた通り、5月31日、大教会長を迎え(随伴・向所隆文准役員)午後7時より遷座祭を執り行いました。遷座した住所は次の通り。鹿児島市千年2丁目8-10

なお6月13日より建物の解体作業が始まり、来年(立教188年)6月7・8日が鎮座祭ならびに奉告祭の予定です。

本樺分教会年祭

本樺分教会(大上道徳会長、北海道札幌市西区)では去る6月9日、月次祭に続いて、本樺分教会2代会長大上武次50年祭・2代会長夫人大上みさを10年祭ならびに3代会長大上道吉10年祭を、西山道教役員祭主のもと執り行いました。

また月次祭に際し、岡崎八十則役員による大教会巡教も併せて行われました。参拝者約50名。



能登半島復興支援有志隊 第一次出動

元日、最大震度6強の大地震に見舞われた石川県珠洲市。鹿島大教会部属の北乃州分教会(矢田勝治会長)と寶立分教会(石橋雄一郎会長)は、地震発生7日後の1月8日、独自に「珠洲ひのきしんセンター」を開設して以降、同センターが教内外の支援者の受け入れ拠点となり、避難者の食事調理や被災家屋の解体作業など、精力的に支援を続けています。

(天理時報5月29日号参照)

本島大教会では「能登半島復興支援有志隊」を結成し(岡崎八十則隊長)、第一次隊の



参加者を募ったところ9名が志願し、5月26日から28日の日程で出動しました。

5月26日午後6時、本島詰所写真の間に集合し、本部神殿でお願いづとめを勤めて天理を出発。午前2時頃、珠洲市の現地に到着し宿営地で仮眠を取りました。

明るる朝、有志隊は3班に分かれて実動。解体チームは倒壊しかけている納屋の解体とその廢材等を運び出し、集積場までの運搬。ひのきしんセンターチームは、寶立分教会のヒビ割れた壁の補修工事。さらに女性隊員一人はひのきしんセンター内での食事の準備と片づけを行いました。

日中は時折小雨が降る中、解体現場では埃が舞うのが抑えられ、精力的に作業を行いました。作業終了後、依頼された方が「感謝しかありません」と言われ最後まで見送って下さった姿が印象的でした。また教会の壁補修工事につ

いて石橋会長は「去年の5月に大きな地震があり、直し終えたところに今度の大きな地震によってまた壊れた。直しても壊れるし、このままにしておこうと思っていた壁が、綺麗にしてもらえて、やっぱり直してよかったと思えた。これで拠点に訪れる方々や、教会の関係者、そして何より親

神様、教祖、祖霊様にも喜んでもらえる、安心してもらえます」と仰って下さいました。出動した岡崎八十則隊長談。「地震発災から半年近く経っていますが、珠洲市内だけでなく能登半島全域において、遅々として復旧工事が進んでいない印象です。我々の一日だけの活動はとても微力でありますが、これを続けていく先に、必ず復興していくと信じています。これからも活動を続けて行きたいと思えますので、ご支援とご協力をお願いします。」

次回8月23日から25日の日程で出動を計画しています。

おわら 大裏地区田植えひのきしん

本島大教会では、御本部の献饌物や御供米に使われる大裏地区(天理市豊田町)の水田で、6月25日午前9時より手植えによる田植えひのきしんを実施。大教会長夫妻を始め40名が参加しました。

ひのきしんに先立ち管財二課大裏農事係の森本孝一氏より、大裏地区では4月16日に本部で勤められた「萌出のつとめ」で供えられた種籾をお下げ頂き、育苗したものを、大裏地区にある約20枚の水田に植えていること。本島大教会が今年の田植えの千秋楽であること等の説明がありました。



能登半島復興支援有志隊

「第一次隊出動者名簿」

(立教187年5月26日〜28日)

- ▼本島△横山富明 ▼本京△牧野近弘△牧野善明 ▼安藝本中△池田恒治 ▼与島△岡崎八十則 ▼本廣△白垣俊生 ▼栄東峰△川村吉夫△川村かず子 ▼新信峰△木村太喜 【計9名】

今年は苗代として使われてきた豊田公民館前の水田一反で、ひのきしん者は裸足で泥田に入り、一列に並び、文岡育則係員の号令に合わせながら、約90分かけていねいに田植えを行いました。なお稲刈りは10月24日に行う予定です。どなた様もご参加いただけます。

事情はじび

立教187年6月、本島関係のお運びはありませんでした。

おどげの理拝戴

(立教187年5月分)

- 本 浜 山崎美穂
- 本千恵 大友和子
- 肥後八峰 川村昂平
- ラナイ

KORI NAKAGAWA

【計4名】

修養科第994期修了

(立教187年6月27日修了)

- 本 島 片山好次
- 本千賀 山本蓮人
- 鶴 峰 中村直登

【計3名】

教人登録

(立教187年5月14日付)

- 肥後八峰 肥後 信
 - (立教187年6月6日付)
 - 雄福峰 北山成美
- 【計2名】

教人資格講習会修了

(立教187年6月10日付)

- 肥後八峰 肥後 信

【計1名】

をびや許し

(立教187年5月分)

- 本 島 大野原友香
- 本東都 渡辺麻衣子
- 本 都 石田 麗

【計3名】

証拠守り下附

(立教187年5月分)

- 本千代2

【計2名】

ろくぢ会

(立教187年6月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼崇徳分教会△高垣みなみ△高垣嘉一 ▼本高△菅岡新 ▼ポートランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次
ご芳志に厚くお礼申し上げます

大教会長動向

▼7月(予定)▲

- 1日、本部神殿奉仕当番
- 4日、吉松峰分教会 会長就任奉告祭
- 8日、本宣道分教会会参拝
- 22日、大教会月次祭執行
- 24日、修養科門出まなび
- 25日、かなめ会委員会
- 26日、本部月次祭参拝
- 27・28日、台禮教公鎮座奉生具祭
- 27日～8月1日、アメリカカ巡教

以上



統計 (5月1日～31日)

教会名	初席	中席	雲石壇	修養科	教人講習	検定講習
御幸濱		1				
本千代		2	1			
本千恵			1			
本太	1	1				
赤豪	1	1				
倉峰	2					
雄福				1		
肥後八峰			1			
仙峰		1				
ラナイ	6		1			
合計	11	8	4	1	0	0

青年会ひのきしん隊

70周年記念隊

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では、6月7・8・10・14・15日の5日間、おやさとふしん青年会ひのきしん隊6月隊(70周年記念隊)に入隊。13名(のべ21名)がひのきしんに汗を流しました。ひのきしん内容は、大裏地区田植え、前真柱様10年祭とこどもおどばがえりで使用するテント設営でした。



青年会ひのきしん隊6月隊

入隊者名簿(立教187年6月)

▼本島△片山幹太郎△片山昇太△片山秀明 ▼本米臺△内橋和博 ▼本花△奥村由多加 ▼攝良△香川靖幸△香川高範△神前和博△神前鈴羽(家族入隊) ▼攝津△鎌田康典 ▼同朋△新見寿明 ▼本備前△伊東賢太郎 ▼本廣△白垣俊生

【計13名】

また家族入隊も可能で、期間中少年会員1名が参加しました。

関東の集い

【青年会本島分会】

- 日時：9月1日(日)10:00～17:00
- 会場：渋谷分教会
- 対象者：関東に住んでいるようばく、信者、子弟、年齢性別不問
- 内容：グループワーク、表参道ゴミ拾いひのきしん、茶話会

大教会7月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：7月22日大教会7月月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：7月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。



7月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・食堂ひのきしん〉

- 期間：7月21日～22日
- 派遣：本京

〈詰所・食堂ひのきしん〉

- 期間：7月25日～26日
- 派遣教会：本浜、与島

〈本島鼓笛隊夏季合宿ひのきしん〉

- 期間：7月26日～31日
- 派遣教会：樺太、渋谷、本浜、本邦、本九②、赤峰

〈こどもおぢばがえりひのきしん〉

- 期間：8月1日～2日
- 派遣教会：本京、本攝、本高、赤峰
- 期間：8月3日～4日
- 派遣教会：本岡崎、本攝、同朋、赤峰

<https://www.honjima.com/>

全教会布教推進月間

【布教部】

「全教会布教推進月間」とは

ご本部(布教部)では毎年9月28日から30日まで「全教一斉にをいがけデー」、さらに9月は「にをいがけ強調月間」として活動されていますが、年祭活動の第2年目の9月は特に「全教会布教推進月間」とし、文字通り全教会で布教活動を計画し実行することが打ち出されました。

この実施にあたっては、大教会より本部布教部へ実施計画書と実施報告書の提出が求められています。

大教会布教部としては、従前より行ってきた「にをいがけ名簿」「おさづけ取次報告」の全教会提出を目指し、すべての教会での布教活動実施を実現したいと計画しています。

そこで布教部委員12名に担当教会を振り分け、直轄教会長と当該教会長に直接声かけを行わせて頂くことにしました。

声かけ役割分担(直轄教会ごと)

本島、樺太④、本樺、本室	平井真治郎
渋谷⑩	宮路和徳
本京⑬	平井真治郎
本浜⑭、本岡崎②	吉田晴雄 位下道治
本攝⑬	鎌田典夫
本邦③、本篠③、本海、同朋、仁徳、本柳②、張家口、那波②(P.C. 除く)	伊東康成 平井真治郎
本岡、撫川、琴浦③、本宮濱、本承德②、本福、本山海	山下英久 向所隆文
安藝本中⑥、本府中、本中國、沖浦、馬木尾	茶屋原みち江
本亀、本清水、崇徳、与島、本廣、本勇、本高、本宣道、阿波本徳、本阿波	高垣光治
本九⑨、本新田、本九台、本豊後、本肥	宮武有為子
赤峰⑩	向所隆文
海外⑫	文岡邦人

布教部報告(6月分) 数字は本年の提出回数です

にをいがけ名簿提出教会 (6月)					
樺太	6	本米浜	4	吉峰	5
本倉岡	5	本千代	6	豪峰	6
本樺	6	本千治	4	倉峰	6
渋谷	4	本攝	6	栄峰	1
代々木	4	攝津	4	大雄峰	4
本萬代	4	攝泉	4	雄福峰	6
本都	5	本萩	6	栄森峰	5
本京	6	本備前	6	栄星峰	4
本東	2	本廣島	1	霊峰	5
本草	6	本迪	4	實峰	5
本護	4	本府中	6	大隅聖峰	5
本三	4	沖浦	6	大松峰	5
本恵	6	崇徳	6	大駿峰	5
本恵明	6	与島	5	大英峰	6
本静濱	5	本宣道	5	文峰	6
本静森	4	本九	6	鶴峰	5
本日米	6	本陽山	6	都峰	6
本浜	4	本新田	6	仙峰	6
本米	4	赤峰	6		
本米里	6	雅峰	6		
計58教会	454名				

おさづけ取次報告教会 (6月)					
本島	6	本攝	6	栄峰	3
樺太	6	攝津	4	大雄峰	5
本倉岡	5	攝泉	6	雄福峰	6
本樺	6	本太	6	雄山峰	6
代々木	4	本萩	6	栄森峰	4
本萬代	4	安藝本中	5	栄星峰	2
本都	4	本備前	6	霊峰	5
本京	6	本廣島	1	實峰	3
本東	2	本迪	3	大隅聖峰	4
本道盛	6	本府中	5	大松峰	5
本草	6	沖浦	6	大駿峰	6
本三	4	本清水	5	吉松峰	5
本恵	6	崇徳	6	大英峰	6
本恵山	4	本高	6	文峰	2
本恵明	6	本九	6	肥後八峰	6
本静濱	5	本陽山	6	銀峰	3
本日米	6	本肥港	6	新信峰	5
本浜	6	本新田	5	鶴峰	6
本米	6	本九台	5	都峰	5
本米里	6	赤峰	6	仙峰	6
本米浜	6	雅峰	6	ハリウッド	5
本千代	6	吉峰	4	シータック	3
本千治	3	豪峰	6		
本平濱	5	倉峰	6		
計71教会	1,668回				

大教会からの お知らせ

6月22日教会長会議連絡事項

こどもおちばがえり

【教会本部】

こどもおちばがえり要項

- **期間**：2024年7月27日(土)～8月4日(日)
- **要項**：インターネットで検索「こどもおちばがえり オフィシャル」
- **留意点**：本年のこどもおちばがえりは、インターネットでの申込となります。全教会に配布されている「申込キー」で、帰参人数とカレー食数の申込みを行います。
- **申込み期間**：
カレー食を申し込む場合：
7月1日10:00～20日24:00
カレー食を申し込まない場合：
7月1日10:00～帰参日当日
※ 詳しくはオフィシャルサイトを十分にご確認ください。

学生生徒修養会 高校の部

【天理教学生担当委員会】

- **期間**：令和6年8月9日(金)～8月13日(火)
- **受講対象**：高等学校に在学し、全期間受講できる者(親里管内については天理高校第I部の自宅通学生に限り受講可)
- **募集人員**：900名(男女各450名)
- **内容**：講話、グループワーク、レクリエーションなど
- **集合**：8月9日正午(昼食を済ませてからご集合ください) 詰所にて受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
- **解散**：8月13日午後2時頃(予定)
- **受講御供**：10,000円
- **申込期間**：5月25日～7月25日
- **申込方法**：要項をダウンロードしてご確認ください。
- **お問合せ先**：
雲庵春彦 090-2515-8039
横関茂治 090-1138-1690

鼓笛隊夏季合宿

【本島団鼓笛隊】

第112回本島団鼓笛隊夏季合宿

- **日程**：7月26日(金)午後3時詰所4階講堂集合、7月31日(水)午後1時頃詰所4階講堂解散
- **参加対象**：小学1年～高校3年生までの男女
- **内容**：29日前夜祭、30日鼓笛御供演奏・オンパレード出演、こどもおちばがえり諸行事参加
- **会場**：本島詰所
- **参加御供**：一律6,000円(宿泊費・食費含む)
- **送迎費**：一律2,000円
- **服装**：練習着(Tシャツ・短パン・帽子・ポシェット)貸与
※ 洗濯は26日～29日まで実施
- **携行品**：白靴、健康保険証のコピー、下着、靴下、パジャマ、タオル、洗面道具、入浴道具、室内運動靴、常備薬、マスク
〈小学1～3年生〉男女ともドリーム隊ユニフォームの下に着る白タンクトップと白パンツ各2枚(ボクサータイプ不可)
〈小学4年生以上〉半袖Tシャツ2枚(本番用)、楽譜、ファイフ(持っていない方は1,000円にてご用意いたします)
- **お問合せ、参加の連絡**は7月10日まで各分隊担当まで。
- **鼓笛隊相談窓口**：
佐藤道子(090-7570-4807)

レッツゴー青年会

【青年会本島分会】

レッツゴー青年会 with 栗太分会

- **日程**：7月6日(土)午前8時 本島詰所集合出発
7月7日(日)午後5時 本島詰所到着予定解散
- **内容**：草刈り、琵琶湖での害獣駆除

学生会サマーキャンプ

【本島学生担当委員会】

- **期間**：8月18日(日)～20日(火)
- **会場**：本島大教会
- **内容**：海濱行事、ひのきしん、パーベキュー、あらかとろうりょう入門塾、こかん様に続く会
- **お問合せ**：雲庵春彦担当委員長

MOMOの会

↓

【婦人会本島支部】

- 琴、三味線、胡弓について、自分の音が聴ける環境でそれぞれお稽古をします。それぞれの悩みや、疑問を一緒に改善していきましょう。
初めての方でも安心してご参加いただけます
- **日時**：
7月29日(月) 13:00～16:30
7月30日(火) 9:00～12:00
 - **会場**：本島詰所(北棟1階和室集合)
 - **持ち物**：琴の爪(貸出あります)
 - **申込期間**：開催日まで(託児の必要な方は7月20日までお申込みください)
 - **対象**：本島につながる子育て中のお母さんや同年代の方はもちろん、女鳴物を基本から身につけたい方はどなたでもご参加いただけます
 - **申込方法**：MOMOの会担当に直接ご連絡頂くか、QRコードを読み取ってMOMOの会LINE公式の申込みフォームよりお申込みください。

 - **お問合せ**：永島すすみ、平井由紀子、片山美穂

少年会総会と夏のつどい

↓

【少年会本島団】

立教187年天理教少年会本島団

第34回少年会総会と夏のつどい

- **期間**：8月20日(火) 16:00～21日(水) 21:00頃解散
- **受付**：8月20日16:00より
- **参加御供**：1000円
- **会場**：本島大教会
- **対象**：少年会員
※ 未就学の少年会員には引率者の付添をお願いします
- **内容**：少年会総会(21日午前)おつとめ練習、ひのきしん、海濱行事、お楽しみ行事など
- **携行品**：ハッピー(準備できる人だけで結構です)、着替え、帽子、タオル、水着、ビーチサンダル、日焼け対策、お風呂(洗面)道具、健康保険証
- **その他**：プログラム途中までの参加でも結構です。引率者の方で海水浴の監視が可能な方はお手伝いをお願いします